授業づくり研修講座　実践レポート

　相武台東小学校　氏名　小野 香澄美

《第２学年》

「心豊かに生き生きと活動する子を目指して　～想いを伝え合う学びを通して～　」

　児童が自分の思いや考えを文字にすることで、語彙や表現方法を学習したり、体系的に自分の考えをまとめたり整理したりすることができるようになることを目指す。自らの気持ちを書くことで明確になる。それをもとに友だちの意見を聞いたり、自分の考えを伝え合ったりすることを通して、心豊かな学び合いを実現させていきたい。

単元名　　　国語「行どうに気をつけて読もう」

教材名　　　「きつねのおきゃくさま」

実践のポイント( 工夫 )

・児童の疑問や感想から学習問題を設定し、自分たちで作った「問い」について学級全体で話し合い、読みを深めていき、課題解決への意欲を高める。

・主人公の行動に着目し行動の意味を考え理解を深めながら、「自分だったら…」という、視点をもてるようにする。また、ペア学習や全体共有を通して自分の考えを再考する。

・ノート活用を充実させる。

実践内容

|  |
| --- |
| 単元の指導目標：きつねや動物たちの行動や様子に気をつけて、気持ちを想像しながら読む。　　　　　　　　( 読むこと　エ、カ )第一次（２時間）・「きつねのおきゃくさま」を通読し、感想をまとめる。　　　　　　　 ・疑問や問いを見つけながら読み、まとめる。　　　　　　　 ・言葉の意味を学習する。第二次（８時間）・登場人物やあらすじを読み取る。　　　　　　　 ・「問い」に対する「応え(自分なりの考え)」をまとめ共有したり、友だちの考えを受けて再考したりする。 ・毎時間の振り返りとして、きつねの吹き出しにコメントを書く。第三次（２時間）・同じ作者の作品や心の変化が描かれた物語を読み、友だちに紹介する。 |

振り返り（・成果〇課題）

・「問い」を自ら作って解決することで、意欲的に取り組む児童が多くいた。また、自分の考えをもとに根拠を挙げて話したり書いたりする児童の姿が多く見られた。

・自分なりの考えを書くことで、自らの考えが残り友だちの意見と比較しやすく、再考の手助けとなった。また、自分の考えがあるからこそ相手の話を聞こうという意識が高まった。

〇「自分だったら…」という視点を持たせる際、自分の立場を明らかにして考えさせる必要があった。

〇日常的に、思考をまとめるツールとして、書くことの有用性を実感できる学習展開が必要である。